

木造建築物の耐久性に係る評価
業務規程

ハウスプラス住宅保証株式会社

目次

第1章 総則

第1条（趣旨）

第2条（基本方針）

第3条（評価の業務を行う時間及び休日）

第4条（事務所の所在地及び評価の業務を行う区域）

第5条（評価の業務を行う建築物の種類及び範囲）

第2章 評価の業務の実施の方法

第1節 申請手続き

第6条（評価の申請）

第7条（評価書が交付された後に行う計画の変更に係る評価の申請）

第8条（評価の引受け及び契約）

第9条（業務約款に盛り込むべき事項）

第2節 評価の実施方法

第10条（評価の実施方法）

第11条（評価書の交付）

第12条（評価の申請の取下げ）

第3章 評価料金等

第13条（評価料金の収納）

第14条（評価料金を減額するための要件）

第15条（評価料金を増額するための要件）

第16条（その他の料金）

第17条（評価料金の返還）

第4章 評価員等

第18条（評価員の選任）

第19条（評価員の解任）

第20条（評価員の教育）

第21条（秘密保持義務）

第5章 評価の業務に関する公正の確保

第22条（評価の業務の実施及び管理の体制）

第23条（評価員等の身分証の携帯）

第24条（評価の業務に関する公正の確保）

第6章 雑則

第25条（評価業務規程の公開）

第26条（財務諸表等の備付け）

第27条（財務諸表等に係る閲覧等の請求）

第28条（帳簿及び書類の保存期間）

第29条（帳簿及び書類の保存及び管理の方法）

第30条（損害賠償保険への加入）

第31条（電子情報処理組織等による方法）

第32条（電子情報処理組織に係る情報の保護）

附則

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この評価業務規程（以下「規程」という。）は、ハウスプラス住宅保証株式会社（以下「ハウスプラス」という。）が、木造建築物の耐久性に係る評価のためのガイドライン（令和6年12月24日国住木第90号）（以下単に「ガイドライン」という。）第6第一号に規定する評価（以下単に「評価」という。）の業務の実施について、必要な事項を定めるものである。

(基本方針)

第2条 評価の業務は、ガイドラインによるほか、この規程に基づき、公正かつ適確に実施するものとする。

(評価の業務を行う時間及び休日)

第3条 評価の業務を行う時間は、次項に定める休日を除き、午前9時00分から午後5時00分までとする。

2 評価の業務の休日は、次に掲げる日とする。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める国民の祝日

(3) 12月29日から翌年の1月3日まで

(4) 5月1日

3 評価の業務を行う時間及びその休日については、緊急を要する場合その他正当な事由がある場合又は事前に申請者との間において評価の業務を行う日時の調整が図られている場合は、前2項の規定によらないことができる。

(事務所の所在地及び評価の業務を行う区域)

第4条 事務所の所在地は、東京都港区海岸一丁目11番1号とする。

2 事務所の業務区域は、日本全域とする。

(評価の業務を行う建築物の種類及び範囲)

第5条 ハウスプラスは、ガイドライン第2第五号に規定する評価対象建築物について、評価の業務を行う。

第2章 評価の業務の実施の方法

第1節 申請手続き

(評価の申請)

第6条 評価を申請しようとする者は、ハウスプラスに対し、ガイドライン別記第一号様式による評価申請書に、ガイドライン第6第五号に規定する設計図書等及び第6第六号に基づき次項に規定する資料を添えたもの（以下「評価用提出図書」という。）を提出しなければならないものとする。

- 2 ガイドライン第6第六号に基づきハウスプラスが追加して求める資料は、ハウスプラスが別に定める木造建築物の耐久性に係る評価サービス申込書（以下「サービス申込書」という。）、設計内容説明書及び性能証明資料等とする。
- 3 第1項にかかわらず、ハウスプラスに評価を申請しようとする者は、申請に先立ち、申請を予定する建築物に係る資料等（以下「事前相談資料等」という。）を用い、ハウスプラスに事前相談をすることができる。

(評価書が交付された後に行う計画の変更に係る評価の申請)

第7条 評価書の交付を受けた建築物の計画を変更する場合において、評価を申請しようとする者は、ハウスプラスに対し、ガイドライン第6第五号に規定する設計図書等で当該変更に係るもの及び評価用提出図書、及び前条第2項で求める資料を提出しなければならないものとする。ただし、従前の評価書が他の機関で交付されたものについて、ハウスプラスに変更申請を行う場合は、新規の申請として取り扱うものとする。

(評価の引受け及び契約)

第8条 ハウスプラスは、第6条又は第7条の申請があったときは、次の事項を確かめ、これを引き受ける。

- (1) 申請に係る建築物が、第5条に定める評価の業務を行う範囲に該当するものであること。
 - (2) 評価用提出図書に形式上の不備がないこと。
 - (3) 評価用提出図書に記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
 - (4) 評価用提出図書に記載された内容に明らかな虚偽がないこと。
- 2 ハウスプラスは、前項各号に該当しないと認める場合においては、その補正を求めるものとする。
 - 3 申請者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、引き受けできない理由を説明し、評価用提出図書を返還する。
 - 4 第1項により申請書を引き受けた場合は、ハウスプラスは、申請者に評価に係る引受承諾書を交付する。この場合、申請者とハウスプラスは別に定める「木造建築物の耐久性に係る評価業務約款（以下「業務約款」という。）に基づき契約を締結したものとする。
 - 5 申請者が、正当な理由なく、引受承諾書に定める額の料金を業務約款に規定する納入

期日までに納入しない場合には、ハウスプラスは前項の契約を解除し第 1 項の引受けを取り消すことができる。

(業務約款に盛り込むべき事項)

第 9 条 業務約款には、少なくとも次の事項を盛り込むこととする。

- (1) 申請者は、ハウスプラスの請求があるときは、評価の業務の遂行に必要な範囲内において、申請に係る追加書類を遅滞なく提出しなければならない旨の規定。
- (2) ハウスプラスは、申請者から前号の追加書類の提出が行われない場合にあっては、評価の業務を中断又は中止する旨の規定。
- (3) 申請者は、評価の申請内容に関しハウスプラスが行った評価用提出図書に関する是正事項の指摘に対し速やかに当該部分の評価用提出図書の修正その他必要な措置をとらなければならない旨の規定。
- (4) ガイドライン第 6 第一号に定める評価書の交付前までに申請者の都合により申請に係る内容を変更する場合は、申請者は、ハウスプラスに変更部分の評価用提出図書を提出しなければならない旨の規定。かつ、その変更が軽微であるとハウスプラスが認める場合を除き、申請者は、当初の申請内容に係る申請を取り下げ、別件として改めて評価を申請しなければならない旨の規定。
- (5) ハウスプラスは、評価書を交付し、又は評価書を交付できない旨を通知する期日（以下「業務期日」という。）を定める旨の規定。
- (6) ハウスプラスは、申請者が第一号から第四号までのいずれかの規定に反した場合には、前号の業務期日を変更することができる旨の規定。
- (7) ハウスプラスは、不可抗力によって、業務期日までに評価書を交付できない場合には、その延期を請求することができる旨の規定。
- (8) 申請者が、その理由を明示の上、ハウスプラスに書面をもって業務期日の延期を申し出た場合でその理由が正当であるとハウスプラスが認めるときは、その延期をすることができる旨の規定。
- (9) ハウスプラスは、申請者の責めに帰すべき事由により業務完了期日までに評価書を交付することができない場合又は前号の理由が正当でないとハウスプラスが認める場合、契約を解除することができる旨の規定

第 2 節 評価の実施方法

(評価の実施方法)

第 10 条 ハウスプラスは、評価の業務の引き受けた場合は、すみやかに評価員により評価に係る審査を実施させる。

2 評価員は、ガイドラインに基づき、審査を行う。

3 審査を行う場合にあっては、評価員は次に定める方法により審査を行う。

- (1) 評価用提出図書をもって審査を行う。

(2) 審査を行うに際し、評価用提出図書の記載事項に疑義があり、提出された評価用提出図書のみでは評価を行うことが困難であると認めるときは、追加の図書を求めて審査を行う。

4 評価員は、審査上必要あるときは、評価用提出図書に関し申請者に説明を求めることができる。

5 ハウスプラスは、第1項から前項までの規定により行った審査の結果を踏まえて評価を行う。

(評価書の交付)

第11条 ハウスプラスは、第10条による評価の結果、申請に係る建築物がガイドライン第5の基準に適合していると認めたときは、その結果をガイドライン別記第二号様式に記載し、申請者に交付する。

2 ハウスプラスは、第10条による評価の結果、申請に係る建築物がガイドライン第5に規定する評価の基準に適合していないと認めるとき又は有するか否か評価できないときは、その結果及び理由を記載し、申請者に交付する。

(評価の申請の取下げ)

第12条 申請者は、申請者の都合により評価書の交付前に評価の申請を取り下げる場合は、その旨を記載した取下届をハウスプラスに提出する。この場合、ハウスプラスは評価の業務を中止し、提出された評価用提出図書を申請者に返却する。

第3章 評価料金等

(評価料金の収納)

第13条 ハウスプラスは、評価の申請を引受け、第8条第4項に定める引受承諾書を交付したときは、別に定める評価料金の請求書を申請者に対して発行する。

2 申請者は、前項の評価料金を納入期日までに銀行振込によりハウスプラスに納入する。ただし、緊急を要する場合には別の方法によることができる。

3 前項の納入に要する費用は、申請者の負担とする。

(評価料金を減額するための要件)

第14条 評価料金は、次に掲げる場合に減額することができるものとする。

(1)当該業務が効率的に実施できるとハウスプラスが判断したとき。

(2)申請者が年間開発の全てをハウスプラスに申請する旨の年間契約を行うとき。

(3)あらかじめハウスプラスが定める日又は期間内に評価業務依頼を行ったとき。

(4)その他ハウスプラスが認めるとき。

(評価料金を増額するための要件)

第15条 評価料金は、次に掲げる場合に増額することができるものとする。

- (1) 評価料金に含まれない業務を実施しなければ、評価が行えないとハウスプラスが判断したとき。
- (2) ハウスプラスの責めに帰すことができない事由により業務期日が延期された場合。

(その他の料金)

第16条 ハウスプラスは、次に掲げる場合に費用を別途請求できるものとする。

- (1) 事前相談
- (2) その他ハウスプラスが必要と認めるとき

(評価料金の返還)

第17条 納入された評価料金は、返還しないものとする。ただし、ハウスプラスが認める場合又はハウスプラスの責に帰すべき事由により評価の業務が実施できなかった場合は、この限りでない。

第4章 評価員等

(評価員の選任)

第18条 ハウスプラスの長は、評価の業務を実施させるため、住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成11年法律第81号）第13条に定める要件を満たす者のうちから、評価員を選任するものとする。

2 評価員は、職員から選任するほか、職員以外の者に委嘱して選任することができるものとする。

(評価員の解任)

第19条 ハウスプラスの長は、評価員が次のいずれかに該当する場合その他ハウスプラスの長が必要があると認めた場合においては、その評価員を解任するものとする。

- (1) 個人情報又は秘密の管理に関する義務違反等の職務上の業務違反その他評価員としてふさわしくない行為があったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に耐えないと認められるとき。

(評価員の教育)

第20条 評価員の資質を向上するため、評価員に対し、年1回以上、ハウスプラスの行う評価の業務に関する研修もしくは評価の審査上必要な情報の周知を行うものとする。

(秘密保持義務)

第21条 ハウスプラスの役員及びその職員（評価員を含む。）並びにこれらの者であった者は、評価の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用しては

ならない。

第5章 評価の業務に関する公正の確保

(評価の業務の実施及び管理の体制)

第22条 ハウスプラスは、評価の業務に従事する職員を、審査部に配置する。

- 2 評価員又はハウスプラスの役員若しくは職員以外の者は、評価の業務に従事しないものとする。

(評価員等の身分証の携帯)

第23条 評価等の業務に従事する職員（評価員を含む。）が、評価の対象となる建築物並びにその敷地及び工事現場に立ち入る場合においては、その身分を示す証明書を携帯し、必要に応じて関係者に提示しなければならない。

(評価の業務に関する公正の確保)

第24条 ハウスプラスの役員又は職員（評価員を含む。）が、評価の申請を自ら行った場合又は代理人として評価の申請を行う場合は、当該建築物に係る評価を行わないものとする。

- 2 ハウスプラスの役員又は職員（評価員を含む。）が、評価の申請に係る建築物について次のいずれかに該当する業務を行う場合は当該建築物に係る評価を行わないものとする。

- (1) 設計に関する業務
- (2) 販売又は販売の代理若しくは媒介に関する業務
- (3) 建設工事に関する業務
- (4) 工事監理に関する業務

- 3 ハウスプラスの役員又は職員（評価員を含む。）で、ハウスプラス以外に所属する法人の役員又は職員である者（過去2年間に所属していた法人の役員又は職員であった者を含む。）が、次のいずれかに該当する業務を行った場合、当該役員又は職員（評価員を含む。）は当該申請に係る評価を行わないものとする。

- (1) 評価の申請を自ら行った場合又は代理人として評価の申請を行った場合
- (2) 評価の申請に係る建築物について前項各号に掲げる業務を行った場合

- 4 ハウスプラスは、第1項から前項までに掲げる場合に準ずる場合であって、評価の業務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがある場合は、評価の業務を行わないものとする。

第6章 雑則

(評価業務規程の公開)

第25条 ハウスプラスは、本規程をインターネット上に開設したハウスプラスのホームページ（<https://www.houseplus.co.jp/>）において公表するものとする。

(財務諸表等の備付け)

第 26 条 ハウスプラスは、毎事業年度経過後 3 月以内に、その事業年度の財産目録、貸借対照表及び損益計算書並びに事業報告書を作成し、5 年間事務所に備えて置くものとする。

(財務諸表等に係る閲覧等の請求)

第 27 条 利害関係人は、ハウスプラスの業務時間内は、いつでも、次に掲げる請求をすることができる。

- (1) 財務諸表等が書面をもって作成されているときは、当該書面の閲覧又は謄写の請求
- (2) 前号の書面の謄本又は抄本の請求
- (3) 財務諸表等が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像面に表示する方法により表示したものの閲覧又は謄写の請求
- (4) 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であって次に掲げるもののうち、ハウスプラスが定めるものにより提供することの請求又は当該事項を記載した書面の交付の請求
 - (a) ハウスプラスの使用に係る電子計算機と法第 18 条第 2 項第 4 号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機を電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であって、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの
 - (b) (a)に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものとする。

(帳簿及び書類の保存期間)

第 28 条 帳簿及び書類の保存期間は、次に掲げる文書の種類に応じ、それぞれに掲げるものとする。

- (1) 帳簿 評価の業務の全部を廃止するまで
- (2) 評価用提出図書（是正されたものに限る。）及び評価書の写しその他審査の結果（審査した年月日並びに当該年月日毎に審査を行った評価員の氏名、審査における指摘事項及び当該指摘事項に対する申請者の対応を含む。）を記載した書類 ハウスプラスが評価の業務を廃止するまで

(帳簿及び書類の保存及び管理の方法)

第 29 条 前条各号に掲げる帳簿及び書類の保存は、審査中にあつては特に必要がある場合を除き事務所内において、審査終了後は施錠できる室、ロッカーその他の秘密が漏れることのない確実な方法で行う。

2 前項の保存は、当該帳簿及び書類を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録し、必要に応じ電子計算機その他の機械を用いて明確に表示することができるときは、これを行うことができるものとする。

(損害賠償保険への加入)

第 30 条 ハウスプラスは、評価の業務に関し支払うことのある損害賠償のため保険契約（てん補限度額が年間 1 億円以上であるもの及び地震その他の自然変象によって明らかとなった瑕疵についての補償が免責事項となっていないもの。）を締結するものとする。

(電子情報処理組織等による方法)

第 31 条 ハウスプラスが行う評価の業務に関し受理又は交付する書類について、電子情報処理組織（ハウスプラスの使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。）と申請者の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。）の使用又は磁気ディスク（これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物を含む。）の受理又は交付によることができる。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第 32 条 ハウスプラスは、電子情報処理組織による申請の受付及び取下げ並びに図書の交付を行う場合にあっては、情報の保護に係る措置について別に定めることとする。

(附則) この規程は 2025 年 6 月 2 日より施行する。

別表 評価料金一覧表（第 13 条関係）【新規／変更】

1. 評価料金（延べ面積 2,000 ㎡以下）

電子申請の場合で評価書の電子交付を行う場合の評価料金

税込金額

評価対象建築物	料金
木造の新築非住宅建築物	77,000 円
木造と鉄筋コンクリート造その他の構造とを併用する新築非住宅建築物	104,500 円

・延べ面積 2,000 ㎡超は、全て見積もりとする。

2. 取下げ手数料

税込金額

	受取のみ	受付のみ	質疑提出後
取下げ手数料	なし（金額ご返金）	一律 5,500 円	評価料金全額

・ただし、ハウスプラスが認める場合又はハウスプラスの責めに帰すべき事由により評価の業務が実施できなかった場合は、この限りではない。

3. 再発行手数料

税込金額

	再発行手数料
評価書の再発行 （滅失、または汚損・破損による）	5,500 円
評価書の再発行 （評価に影響のない範囲の記載事項の変更による）	11,000 円